

## 超高齢者に発見された 膀胱パラングリオーマの1例

え 江    はら 原    しょう 省    じ 治

キーワード：膀胱，パラングリオーマ，超高齢者，89歳

### 要 旨

CT で発見された超高齢者の膀胱パラングリオーマの1症例を経験した。症例は89歳，男性で夜間の動悸と体動困難を主訴として当院内科へ入院した。既往歴として心不全，前立腺肥大症，COPD があり，薬物療法と HOT を行っていた。スクリーニング CT で膀胱に約 1 cm 大の造影効果を示す腫瘤が発見され，泌尿器科へ転科した。膀胱鏡検査，超音波断層検査，MRI で膀胱粘膜下腫瘍と診断，経尿道的切除術を行った。術中，一時的に血圧が上昇したが手術終了時には正常に回復した。病理組織学的診断はパラングリオーマであった。膀胱パラングリオーマは高齢者にはまれと考えられるが，膀胱非乳頭状腫瘍や膀胱粘膜下腫瘍を見た場合は本症の可能性も考え診断，治療にあたる必要があると考えられた。

### はじめに

褐色細胞腫の副腎外に発生したものをパラングリオーマと呼ぶが，膀胱に発生することは比較的まれとされる。今回，CT 検査で偶然発見された超高齢者の膀胱パラングリオーマの1症例を経験したので若干の文献的検討を加え報告する。

### 症 例

患者：89歳，男性

主訴：動悸と体動困難

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：1992年より COPD，心不全のため入院を繰り返しており，1996年より HOT を開始，抗不整脈薬，利尿剤などを内服していた。また前立腺肥大症があり  $\alpha_1$  ブロッカーを内服していた。現病歴：2006年2月ころより時々，発作性の発汗，動悸が出現するも短時間で消失していた。排尿との関係は明らかではなく，内科的には COPD，心不全による症状と考え，経過観察されていた。同年9月4日より夜間の動悸が出現，これに伴い体動困難となり，同年9月7日，リハビリテー

Shoji EHARA

出雲市立総合医療センター

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613番地